

「人間の尊厳・生命尊重こそ政治の基本である」

NPO法人「深澤晟雄の会」

副理事長 佐々木 孝道さん

全国に先駆けて老人医療費の無料化に踏み切り、乳幼児死亡率ゼロを実現した旧沢内村長深澤晟雄を顕彰して、地域づくりへ貢献することをめざしているNPO法人「深澤晟雄の会」。副理事長の佐々木さんに、その活動について話を聞いた。



深澤晟雄元沢内村長の胸像と佐々木さん

佐々木 孝道さん プロフィール

平成19年「深澤晟雄の会」発足後、整備工場で働きながら、副理事長として活動している。平成20年に開館された、「深澤晟雄資料館」の運営にも携わっている。



● 村長時代に使用していた執務机

● 組織が立ち上がった経緯

平成19年頃に「いのちの作法」という、深澤晟雄元沢内村長を描いたドキュメンタリー映画が撮影された。拝金主義がはびこる今の世の中、生命を尊重する深澤元村長の姿がクローズアップされた。

私は、深澤村長の時代に助役をしていた佐々木吉男さんと同じ地区に住んでおり、若い頃から、深澤元村長の色々な話を聞いており、「生命尊重の理念」に深い感銘を受けていた。

平成17年11月1日に、沢内村は湯田町と合併した。沢内村はもともと農業の町であり、湯田町は観光の町である。合併すれば、「生命尊重の理念」を掲げた深澤元村長の理念が薄らいでしまうのではと考えた。そのため、何としても深澤元村長の理念を後世に伝えるべく、NPO法人「深澤晟雄の会」の発足及び「深澤晟雄資料館」の設立を真剣に考えた。

● 資料収集

当時、深澤元村長と行動を共にしたほとんどの人達は70歳、80歳以上の高齢となっており、資料も少なくなってきたため、今すぐに行動に移らなければ駄目だということと、平成19年にNPO法人「深澤晟雄の会」を立ち上げ、理事長には深澤元村長時代に教育長をしていた太田祖電さんが就任した。深澤元村長の理念を継承するための遺品等、関係する資料を収集したものを保存、展示するメモリアルホール（資料館）を造るためにもNPO法人「深澤晟雄の会」を設立する必要があった。

たまたまその時期に、「いのちの山河」という映画や、NHKのテレビ番組「その歴史が動いた」で深澤元村長が取り上げられた。同テレビ番組は、それまで、主に織田信長や豊臣秀吉などの戦国武将が取り上げられていたが、現代の

人物では深澤元村長が初めてだった。そのためもあってか、世の中が深澤元村長のような人物を求めているかのような風潮が高まっていた。



● いのちの館「深澤晟雄資料館」



● 老人医療無料診療発祥の地「記念碑」

● 行政との連携

「深澤晟雄の会」立ち上げ当時、深澤元村長の資料を収集したり、資料館を造ることを同時進行しながら、役場へ相談した。その頃、深澤元村長の妻が亡くなり、遺族の方から遺品等全てを提供をして頂くことができた。

資料館設立の、肝心のお金については、役場等と相談した結果、かなりの好感を示して頂き、日本宝くじ協会の助成を受けることができた。結果、平成20年4月